

このお知らせは「ケースメソッド教授法セミナー」の受講を検討されている方にもみ向けたものです

2020年6月開講「ケースメソッド教授法セミナー（ベーシックモジュール）」のご受講をご検討の方へ

2020年4月28日  
担当講師：竹内 伸一  
丸尾 聡

2020年6月開講の「ケースメソッド教授法セミナー（ベーシックモジュール）」は、おかげさまで最少開講人数をすでに上回りましたので、申込締切日の5/11時点でも同じ状況であれば開講が決定し、その場合はオンライン授業により開講することにいたしました。授業に使用する Online Meeting System はまだ最終決定をしておりますが、Zoom を用いる方向で検討を進めております。

本セミナーはその教育内容において、ケースメソッドによる通常のディスカッション授業科目と異なり、ディスカッション授業の運営演習という教育実技を大きく伴います。このことに起因して、オンライン開講となることで本セミナーでの学びにどのような影響があるかを、早い段階で概説しておくべきと考えました。開講日程も受講料も変わりませんので、以下に述べる内容をご受講の最終意思決定の一助としてください。

結論から言えば、もっとも大きな影響を受けるのは、インストラクターが立ち回る教室設備の使い勝手であり、その最たるものは板書です。それ以外はさほど影響を受けません。

ディスカッション授業の運営スキルを大きくくり捉えると、1) ディスカッション授業を構想する力、2) 参加者とともに授業をつくる力（授業づくりに向けて参加者の協力を獲得する力、参加者間のコミュニケーションを適切に司る力、参加者の学修活動を洞察する力、などを含みます）、3) 授業に用いる諸設備を活用する力、であろうと考えます。

講師の一人である竹内は2007年よりオンラインによるディスカッション授業の運営経験を積んでおり、また本務校である名古屋商科大学ビジネススクールにて、本セミナーと同様の内容の授業をオンラインですでに実施しました。その結果からも言えることは、参加者による授業運営演習を伴うオンラインセミナーであっても、上記の1)と2)については、オンラインであることの影響をほとんど受けないということです。むしろ2)については、

参加者の表情を一様に一覧できるオンラインのほうが有利なのかもしれませんし、授業に参加する側にとっても、発言の心理的ハードルはオンライン授業のほうが下がっているかもしれないという印象さえあります。

しかしながら、3)については、参加される皆さんがKBSの教室に来ないがゆえに、教室設備が物理的に使用できません。よって、これらの教室機能をオンライン環境下でも行使できるものに置き換えていく必要がどうしても生じますし、置き換えの限界も現われます。実際の授業運営では、インストラクターの「発問」と「板書」が自転車の前輪と後輪の関係のように相互に作用して授業が進行しますので、黒板（あるいはホワイトボード）の重要度が、通常のレクチャー授業とはまた違った意味で大きくなります。つまり、オンラインであっても板書をしないと「ケースメソッド」にならないのです。

では、オンライン授業ではどうしているかと言うと、これが最良のかたちであるかどうかは分かりませんが、たとえば竹内は現在、iPad ProとApple pencilを用いて電子的に板書しながらディスカッション授業をオンラインで運営しています。この方法は使用するOnline Meeting Systemを選ぶことなく汎用的に活用できる方法ですが、ネックはApple pencilで書き込めるiPad Pro（あるいは同等機種）という別装置セットをどうしても必要とすることです。

これらの機器をすでにお持ちの方が授業運営演習をされるなら、使用方法は丁寧に説明しますので、ぜひチャレンジしていただきたいです。また、これらの機器をお持ちでない方が授業運営演習をされる場合は、あいにく貸出機の用意がありませんので、板書だけは演習者の意を汲んで講師側で代行いたします。

講師が板書を「代行する」というと、「本当は自分でしたいのに」というネガティブなトーンが浮かび上がりはしますが、ディスカッション授業初心者にとって、一斉に挙手して自分が言いたいことを強く主張する参加者との口頭でのやりとりと、手を動かしてのスピード感ある板書を同時に担うのは「そもそも難しい」という厳しい現実もあります。よって、講師が板書を代行することが、演習者にとっては「余裕をもって参加者との対話に没頭できる」という利点に転じ得ることもまた事実です。混ぜ返したような話ですみませんが、このことは、本セミナーを長年担当してきた人間として、ひとつの「真実」だと感じています。

他にも、オンライン授業ならではの利点として、コロナ問題状況下にあっても「ケースメソッド教授法」の習得が遅延なく予定通りに進むこと、日吉までの通学に伴う旅費および時間を節約できること、さらには、学んだ「ケースメソッド教授法」のオンライン授業での活用がごく自然に展望できることなど、教室に通学するオンサイト授業では得がたい、この時期ならではの収穫も少なからずあろうかと思えます。

このように、「ケースメソッド教授法セミナー」がオンライン開講されることで、制約や限界も生じますが、オンサイト開講では光が当たらないところに光が当たります。またもちろん、開講期間中に日吉キャンパスへの通学が可能な状況になれば、当初予定のオンサイト授業への切り替えが直ちに検討されます。ここまでに綴ってきた内容が、今年度のご受講判断の一助になれば幸いです。

以上

セミナーサイト：<http://www.kbs.keio.ac.jp/seminar/casemethod/>